

Wri Newsletter 82

NO

1979年4月16日 戦争抵抗者インター日本部 大阪中あべの町2-12-2 ウリ大阪内

活動日記抄(4月4日~14日)

WRI 事務局

4日 ビラ印刷その他で、事務所徹夜泊り込み三人。

5日 午前中引続き作業、午後ぼつ。

6日 毎日新聞朝刊「雑記帳」らんに、こんな記事が出た。

大阪のお天気、雨とところにより紙吹雪になるでしょう。

5日、午後5時すぎ、国鉄大阪駅前の阪神百貨店屋上から、10センチ四方の

ビラが大量に降り出し、折からの西風に乗って舞い上がり、駅前上空は、
にわか吹雪。

カケをさして歩いていた人も空を見上げ一瞬ホカン。「何っ、あれ...」

実はこれ、原子力発電に反対するグループのゲリラ戦術。「止める原子力発電」。

このビラの向い合せは441の8821とビラに印刷した電話番号が、なんと

抗議先の関西電力のもの。...略し入りで

、このときまかれた死の灰ならぬ紙吹雪は、なんと2万4千枚、その半減期の

半数をとって、アルトニウム作戦と呼ばれたとか。それにしても、ビラをま

いて5分もたぬまに、私服や警官がどっとかけつけたその手早さは、15分

前電話で予告されてやってきた

新聞社にもおとらなかつたとい

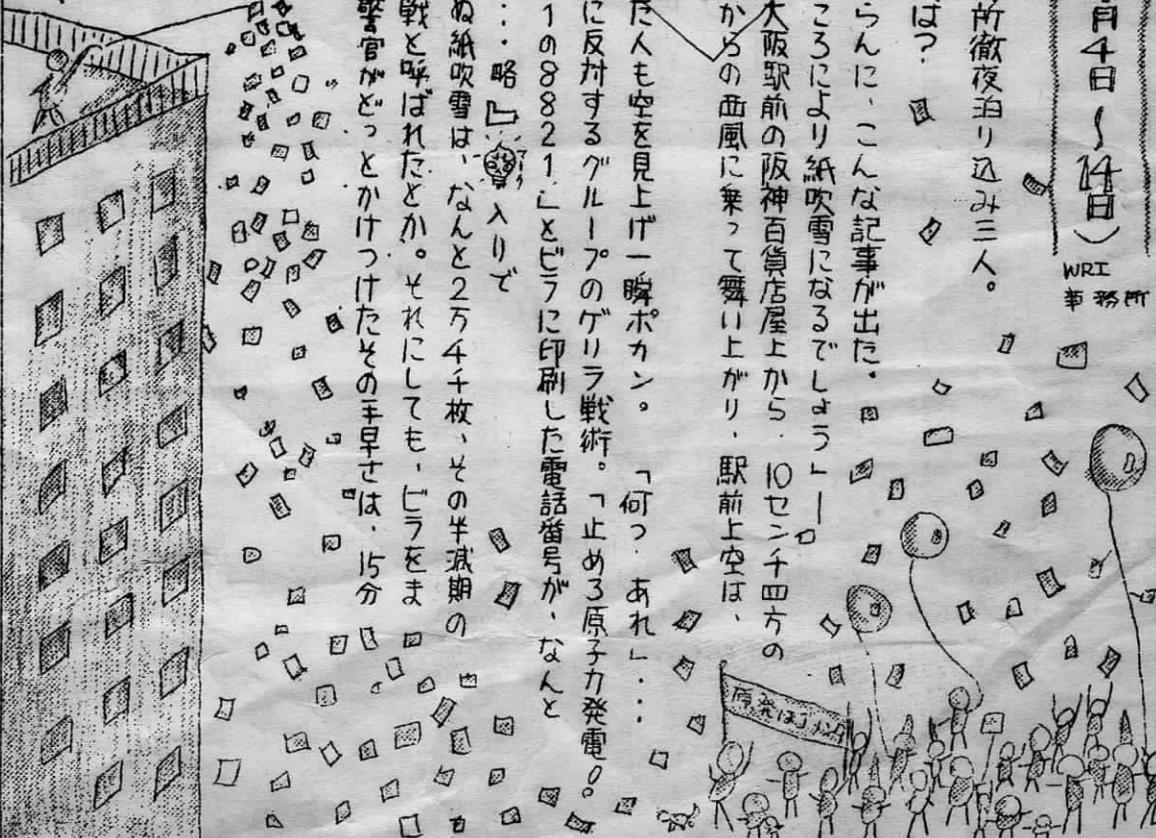
う。

ところでホリさんがしきりに

写真にとったりききこみしたり

したビラの裏面は12種の短丈が

書いてあってなかなかのクッ作



宇利乃太京加乃乃 奥以古止葉

奥天尔乃里城

ひとつふたつ紹介するよ

A (市民)あのアメリカの原発事故みたいなことが

日本でも起るんやないかと心配なんですわが。

(占い師)お答えします。爆発音がきこえます。

風上へ風上へと逃げまどう女。この姿がみえます。

す。だがやがて死の灰をかぶって日本人全部が死に

たえてゆく風景が見えます。

この運命からの加れるには、いまずく手をうつこ

とです。

まず、関西電力は、すべての原子力発電をとめる

べきです。

B お母ちゃんの話

まえの戦争で広島に原爆が落されて、何十万とい

う人たちが殺された。

うちのお母ちゃんつくづく思はんやて、国のりう

ことをかんとんに信用してついていくとロクなこと

あらへん。もう決してだまされたりせえへんぞって

でも、うち思うんやけど、お母ちゃんもうちも

もうだまされてるとちやうんやるか。こんどは「

平和利用」やなんてことばに「まかされて。

そのうち、わたしら「平和」と「繁栄」の中で原

子力発電所の死の灰で、みんな殺されてしまうんや

ないやろか。

★原爆のふりかざらば、お母ちゃんも殺されてしまいます。

5日午後には、はじめ原発前坐り込みが予定されて

いたが、すでに3日の段階で情報ももれており、手

ぐすねひいて敵さんが待っていることが予想された。

当日午後四時頃、関西電力前に出かけていったMさんの報

告によると、案の状、関西電力はぐるりと立入禁止

のロープがはりめぐられ、ガードマン、私服、社員

がずらり、一歩も中へ入れぬ大警戒ぶりだったとか。

★ 午後六時半、原南連拡大世話人会開催。

7日 (昼) 反原発めだかの学校主催、午後三時、

京都三条河原集合後デモ。デモ隊が都大路を通り

かかった折しも、またもや頭上から死の灰ならぬ

紙吹雪。どこにでもゲリラはいるのだ。

★ (夜) 豊中の喫茶店フリークで、不払い連「

花の応援団向答」慢才公園。大カツサイを博した。

この日事務所の本泊者6人。

8日 どしゃぶりの雨、のち小雨。

★ 午後二時から奥田旬子さんを囲む三支部の懇

談会。

★ 午後五時、扇町公園↓大阪駅中央郵便局まで

「元号法制化反対」のデモ。前回はひるばの人たち

もいっしょでおもしろいことがやれた。が今回は連

日の行動でとても誘えようもない。実行委の人が、

こんどもWRは面白いデモをやってくれるんじや

ないか、なんて期待してる、と行ってたというところを
きいた以上、まあ二人だけでもと参加。

二人でもやれるようなーと考えたのが図のような飯
袋で、YさんMさんもいつしよになつて計四人。

道行く人に向元号にしばられるのはイヤダー」と
叫ぶ趣向。小雨の中、50人ほどのデモだった。

しかしどうしてこんなに (みんなを気分が落ちたよ)
私服、制服が多
いのだろう。

連日ですっか
り顔なじみに
なつてしまつ
た。イヤハヤ!



★ 別働隊Rさんらは、熊取町京大原子実験炉と住
反核燃料工場周辺にビラまき。とても反応があつて、
夜公民館での久米さんの講演会は、地元の人か二十人
も集まればと思つたのが五十人もきて会場は混員。

10日 朝日新聞11日朝刊写真入りの記事 (朝日新聞11日朝刊)

「スリーマイル島原発事故を繰り返すな」と10日
どくろの面をつけたり、風船、プラカードを手にした
市民、学生ら約百五十人が大阪市内をデモ行進した。
(略)

この日のデモで特記しておきたいことが三つある。

① 平日の日中なのに、勤員という形でなしに、
百五十人ほどの人があつまつた。市民グループ約五
十人と、二つの学生グループで百人ほど。

② シュプロレヒコール集をつくらせて、みんなに配
った。みるばの人たちとの合作で形作りのもの一
番から十番まである。(③はあとにつづく)

（朝日記事つづき）午後二時すぎから北区・扇
町公園で開いた集会で、「スリーマイル島事故は日
本でも明日にでも起こるかもしれないし」と原発
事故の恐ろしさを訴えたあと、中之島の関西電力本
社に向けて出発。途中「原発は冥土へめいど」の旅
の一里塚、イヤデス・ダメデス、おことわり」など
とユーモラスなシュプロレヒコールを繰り返したり、
「原発は未来なし」のフォーキングを歌いながら
行進した。

関西電力本社前では、「原発ストップ」などと書
きこんだ風船を一斉に空に放つて、原発の停止を訴
えた。

もう少しシュプロレヒコールを紹介するとー
③番

（日高に原発たてようとするのは誰や）●関電やー
（漁師から漁場を奪うのは誰や）●関電やー（若
狭・紀州の海を汚す人は誰や）●関電やー（労働者
被曝を強制する人は誰や）●関電や ●関電は、い
ますぐ大飯の原発をとめる。

7番

(市民とおまわりさんにむけて) ●市民のみは

さん ●今日の南電抗デモは ●私たちを守るオマワ

リさんも ●一緒に参加してもらっています ●この

デモは ●あくまで ●非暴力直接行動でやります

●どうか、おまわりさん ●非暴力であ

ねがいます ●市民のみなさん ●このデモは誰で

も参加できる ●反原発のデモです ●写真をとって

る私服さんにおねがいます ●アルバムに入れた

いと思えますので ●写真ネがは ●全部こちらへお

渡し下さい ●でもない ●肖像権の侵害となりま

す ●これは警告です ●無断撮影は ●告訴される

ことがあります ●カメラをしまって ●いっしょに

デモをやりましょう ●(7番) ●南電社員にむけて

●南電のみなさん、ごころうさん ●せんはこ

わい頼せんと ●いっしょにデモをやりまひよか

●一死の灰つくる南電の ●犯罪行為をとめるため

●南電の共犯者にならんため ●そのうち原発大

事故で ●会社がつぶれてエライコッパ ●つ

ぶれるばかりか地獄いき ●すぐに原発とめなアカ

ン ●建設計画とめなアカン ●わたしもあな

も気持は同じ ●原発反対、いまずぐ反対 ●原

発反対、いまずぐハンターイ

③ 今まで、同じデモに参加していても学生と市民

は全く切れたかたちで交流がなかった。しかし、今日

それは例えば形ばかりなシユアレヒコルを学生
たちも唱和するし、学生の「××阻止」という紋切
型も、毛ぎらいせず私たちもやるという風は、まあ
ありまえることだけれど、いままでなかなか出来て
いなかったということだ。カッキ的なこと。
★夜・六時半 不払い連市民講座。予定をかえ
て、小出裕 さんを講師に「スリーマイル島原発事
故の真相と向題点」。
★十時から、10・27 いまずぐ原発とめる。
全大阪大集会の準備のための打合せ

13回 午後六時半より原南連定例会。23日の特別
講座の準備などの打合せ、その他。
その夜、原子力安全委を協議中の大飯原発運転停
止問題に関して、もし運転が継続されるときは、
14日夕刻からT君がハリストにはいると決意。そ
れはS君と呼吸するということになって、コッパ
コッパということになる。午前一時大飯原発一時
停止の報が入り、一応ハンター見合せをきめる。

14回 朝十時半 南電前集合
— 毎日新聞14日夕刊記事—より



「動揺隠しきれない南電本社」。この朝、大阪市
北區中之島、関西電力本社はこれまで「大飯が止ま
れば今後は確実に電力不足」と公言していただけに

強いシヨウを受けて大飯1号停止に決定を確し、早速おしかけてまた反原発運動がループに付してもものしい警備で臨むなど動搖をかくし切れない。

同日朝押しかけたのは、原子力はごめんだら。関西連絡会のメンバー。関西側に「試運転停止を今後も続けるよう求める」などの申し入れ書を手渡した。

予想どおり、この日南電の大飯発電所一号炉が停まるが停まらぬかの当日だった。恰好のニコース種とばかり、新聞、テレビなど報道関係の取材ぶりは大へんなもの。事務所へ帰ってからも、これからの行動予定は？ ハンストは？ など電話がかかってくる。

一方、もちろんのこと関西側は申入れ書手文にも、敷地内に一歩もこちらを入れず、道路の境界で受取るというもののしき。

★ 11時羊ちかく、南電ビルすぐ近くの朝日新聞大阪本社へ。編集局長、次長らで代理に「申入れ書」を手交。その内容は――

三月三十一日朝刊は版記事(ト)とせば見せし「安全検査は作動に免れた大規模津波」以下の内容が原案推進派の希望的観測によるデマ的説明に同調、その立場を露骨に援護してゐる偏向的作文であるので、その訂正の目的同レベル程度の一原案の致命的危険性に充分言及した訂正記事掲載、反原発運動に悪影響を及ぼすことに対する謝罪の応答を申入れ、ともかくこの申入れに対する朝日の見解回答を21日にも要求すると

いうもの。(申入れ書は朝日新聞に提出し、ほしおはせりませうと下さい)
★ 同日10時天王寺駅集合。日高入翌15日と2日にわたるビラ入れと入不払い連、花の応援団同答し湯才公演。(まだ存子はいいてないのぞ省略)



さて、まとめ代りに日原閣連定例会あつて話あつたことなどのひとつふたつ①こんどの米原発電事故に対して、反原発運動側としての私打ち合はうと、そのときどきの事故の情報に寸秒おかず応ずるといふことが出来なかつた。むしろや、後手後手にまわり非力を感ぜないわけにいかない。②運動はキヤンズとタイミングである。常に待機の姿勢を保つこと、トレーニングが日常活動だ。14日など正にこちらに準備がなれた全マスコミを何千万の広告なしに使うことができたかもしれなかつた。③三人の仲間がおり、仲人のちよつとの助っ人があれば、ある程度のことができる。そんな自主的グループが10も出てくれれば、エライコトが出来る。このキヤンズを、自分の力とするために、いま最大の努力を！ 私たちがしんどいとき、敵サンもしんどい。この一ヶ月、がんばろう。がんばりたい。(F&T)

○ハガキがモモを。電力会社(管轄所)より(原案計画)のよーなことをかいて！ (住所は電話帳でもかかろ)

○政府への原案政策転換要求の署名をまつて！

